第　65　号
発　行　所
独立行政法人国立病院機構
仙台医療センター附属
仙台看護助産学校同窓会
仙台市宮城野区宮城野２-８~８
電話　022-293-1312　内8100

同窓会会報

独立行政法人国立病院機構
仙台医療センター附属仙台看護助産学校
創立年月日　昭和22年９月１日

学校長の挨拶

学校長　**江面正幸**

二〇二三年四月に仙台医療センターの院長を拝命し、それと同時に学校長も拝命しました江面と申します。院長に就任するとすぐ学校から入学式式辞の雛形が送られて来て、特段手を加えなくてもそれを読めば無難に過ぎるようになっていました。私も当時は右も左もわからなかったので、それをそのまま読み上げました。次にやってくるのは卒業式の式辞です。これも同じように学校から雛形をいただきましたが、金太郎飴的な内容に違和感を覚え、私のオリジナルの部分を少し加筆しました。翌月の入学式も同じようにしました。そして本年三月二回目の卒業式式辞が回って来ました。その際の式辞の一部を以下に抜粋します。「…私にも若い頃がありまして、何度かそちら側に座りました。（中略）その他、保護者や関係者として参列することがありますが、卒業式で式辞を受ける側、って意外に少ないんです。それは私にとっても同様で、式辞を述べるも校長をやっている数年しかありません。そんな中で、定型文を印刷した原稿を読み上げるだけで良いのだろうか、と疑問を持ちまして、今年はちょっと趣を変えたことをお話しようと思います。…」話した内容は、私が受けた式辞の中ではっきり記憶している中学校卒業式の式辞のこと、私の恩師がある高校の校長となり2011年の卒業式で読み上げる予定だったものが震災で卒業式自体が中止となり結局オンライン掲載となりネット上で話題になった式辞（時に海を見よ）のことなどです。壇を降りてこれまでにない達成感を味わいました。ただ、私はこの式辞を無原稿でやったものですから、式辞の結びの　令和七年三月六日　独立行政法人国立病院機構　仙台医療センター附属仙台看護助産学校　学校長　江面正幸」という部分を丸々忘れました。しかし、そのことがむしろ私のオリジナルであることをより鮮明にしたかもしれません。

私の学校長としての姿勢をお伝えしたく式辞の話をお伝えしました。同窓生の皆さまにおかれましても、本校のご支援をどうぞよろしくお願いします。



副学校長の就任の挨拶

副学校長　**内山恵吏子**

今年　四月、着任いたしました内山恵吏子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

同窓会の皆様には、学校運営にご協力、ご支援いただき感謝申し上げます。

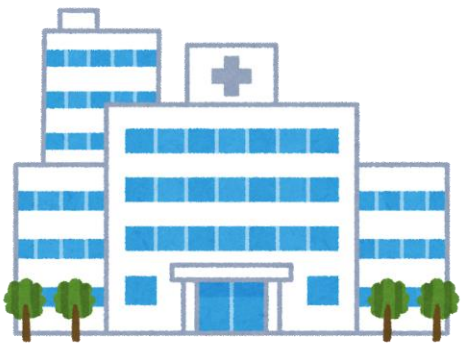
仙台医療センター附属仙台看護助産学校は、三度目の勤務になります。現校舎が新しく建ち、１学年定員１００名で大型校としてスタートした時に新人教員として着任いたしました。私は受け皿ができての四月スタート時点から勤務させていただきましたが、大型校としてスタートするまでのカリキュラムの構築や新校舎の準備等、とても大変であっただろうと思います。通常の看護師教育・助産師教育を行いながらの準備であり、当時、看護学科教育主事の鈴木悦子先生、助産学科教育主事の佐々木和子先生はじめ教員の先生方の努力・ご尽力がありスタートできたことと思っています。私はこの学校から教員としてスタートできたことを嬉しく思っています。長く看護基礎教育に携わり、いろんな場面で判断を求められることがあります。

ここで学んだことが、あるべき姿を目指し教育を考える時の基準になっています。授業は、教員研修で学んだことがとても新鮮で、学習したことを活かしつつ、看護の現場のエピソードも入れながら講義を考え実施しました。学生達はいつでも現場の話を聞くとキラキラします。臨地実習は、学生が体験したことが教育内容になり授業となります。学生にとって実習は学ぼうと思えばいくらでも学べる場ではありますが、実際に医療が展開されている複雑な環境の中で、さまざまな人間関係があり学生にとってはとてもストレスの多い状況となっています。そのような中で病棟の実習指導者さんや病棟師長さん等と情報交換しながら、臨床で起こっている現象から学生に学ばせたい内容を抽出しました。学生は豊かな感性で私が考えていた内容を超えて多くのことを学び、きちんと言語化できています。学生が学ぶことに喜びを感じ、学生の学ぶ力に感動を覚え、たくさん心が動きました。教員を続けられた原動力になっています。教育しているつもりが学達に育てられていたように思います。学生達に学ぶ環境を与えていただいたのだと感謝しています。
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

仙台医療センターの動向について

副看護部長　**守屋かおり**

二〇二二年四月に仙台医療センターの副看護部長として着任いたしました。看護学生の頃から多くを学ばせていただいた当院での勤務は10年ぶりとなります。2019年の移転により建物は美しく変わり、病院としての使命もさらに高く、気持ちが引き締まる思いでした。
着任当時はCOVID19にかかる感染対策の渦中にあり職員全員で必死に対応する日々で、何度も患者受け入れや看護師のリリーフ体制について検討・対応を重ねました。病棟運営を維持していけたのは看護師長の皆様はじめ病棟を守ってくれた看護スタッフあればこそと、心から感謝しています。感染対策をきっかけとして仕事や研修の在り方などが大きく変化しましたが、良いものはそのままに、停滞していたものは取り戻すために精一杯の今だと感じています。
かつて二〇二五年問題と警鐘された時代を迎え、看護の対応力はますます求められるものが高くなりました。当院は高度急性期病院として地域に貢献できる優秀な看護師を育成していく必要があります。ラダーによる看護師育成の他、急性期医療、災害医療、がん・HIV・高齢者看護などの力を伸ばしていけるよう、各自の意向も大切にしながら学習と成長の機会を整えていく取り組みをしています。
また、特定行為研修修了者の育成も喫緊の課題として挙げられており、2021年には指定研修機関として登録され、自院だけではなく他院の研修生も受け入れることとなりました。本研修を修了した看護師は特定行為そのものだけではなく、高い臨床推論・アセスメント力を持ちます。チーム医療の懸け橋となり、質の高い看護を牽引してくれる存在です。今後さらに研修生を増やし、特定行為研修修了者が活躍できる環境が整えられるよう努力していきたいと考えています。
予測困難で変化の激しい今は、既存の方法では対応困難なことも多く、常に考え創造していかなければならないと実感する毎日です。目の前のことを一つずつ取り組みながら、より良い看護の実現につなげていきたいと考えています。



第32回　同窓会総会開催のご案内」

会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

さて、この度第三二回同窓会総会を次のとおり開催いたしますのでご案内申し上げます。今回はご好意により看護学校での開催となります。同窓生の皆様のご出席をお待ちしております。なお、欠席される場合は委任状提出へのご協力をお願いいたします。皆様には総会案内をお送りしております。永代会費となったことや郵送料の値上げ等諸経費の高騰により今後運営費がひっ迫することも予測されるため同窓会活動の在り方についてもご意見をいただきながら検討していきたいと考えております。また、今後は、看護学校ホームページ「同窓会」により会報誌掲載、情報提供をいたしますのでご理解のほどよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、同窓生の皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

【同窓会総会のお知らせ】

日時：令和７年12月20日（土）
13時30分～

場所：仙台医療センター附属仙台看護助産学校　３階教室

日程：受付開始　13時～

